東南アジアの自然と農業研究会

第 98 回研究会のご案内

第 98 回定例研究会を開催いたします。今回は、信州大学農学部植物遺伝育種学研究室の **根本 和洋** 氏に下記の内容のように報告していただきます。年末のお忙しい頃かと思いますが、皆様の多数のご参加と活発な討論を期待してお待ちしております。なお、研究会終了後、忘年会もかねまして、簡単な懇親会を予定しております。こちらにも奮ってご参加いただければ幸いです。

記

日　　時：　2000 年 12 月 22 日（金）午後 4 時～午後 6 時
会　　場：　東南アジア研究センター　東棟２階第１教室
　　京都市左京区吉田下阿達町 46
　　川端通り荒神橋東詰め
話題提供者：　根本 和洋 氏
話　　題：　「ネパールにおけるアマランサスの栽培・利用
　　－人々はこの作物をどう受け入れたか－」

～要旨～

アマランサスは新大陸起源のヒユ科の作物で、子実の直径は約１mm、千粒重は１g にも満たず、他の雑穀類のそれととくらべても非常に小さい。現在、アマランサスは、ヒマラヤ周辺諸国の山間地域でよく栽培されているが、同じく新大陸で起源したトウモロコシやジャガイモ、インゲンマメ、トウガラシといった作物がこの地域で欠かすことの出来ない重要な作物となっているのに対し、決して主要な作物になっているわけではない。では、マイナークロップであるアマランサスがなぜこの地域に定着し得たのだろうか。人々はこの作物をどの様に受け入れているのだろうか。本報告では、まずネパールにおけるアマランサスの多様な栽培様式と利用の現状についてお話しし、インドへの輸出や呼称の分布の事例に焦点をあて、ネパールの人々がアマランサスを作物としてどの様に位置づけ、認識しているのかについて考えてみたい。

問い合わせ先：
富田晋介　京都大学農学研究科地域環境科学専攻
Tel. 075-753-6352　mailto: tomita@kais.kyoto-u.ac.jp
柳澤雅之　京都大学東南アジア研究センター
Tel. 075-753-7345　mailto: masa@cseas.kyoto-u.ac.jp